

蚕霊供養塔

～シルク岡谷の名残を今に伝える～

◆製糸家の心意気

岡谷の製糸業関係者が、蚕糸業の発展を祈念するために昭和9年に照光寺に建立した供養塔。世界的不況の時代に、製糸業関係者18人が発起人となり約3万人から寄付を集め、犠牲となった蚕の霊を慰め、蚕糸業の発展を祈るために建立した。同年11月15日には製糸関係者や工女さんが数万人参列し、供養式典が行われた。翌昭和10年4月29日に第1回御開帳を行い、現在でもこの日に法要が執り行われている。

◆優美な塔

木造銅葺重層、基壇積石14尺四方、高さ5尺の美濃石を使用。堂塔建築様式の組物で一番立派な三手先（屋根を支え軒を飾る3段の木組み）としている。

◆蚕の守り神

本尊の馬鳴菩薩めみょうぼさつは蚕の神様であり、蚕玉神こだまがみとも言う。木造総高1尺5寸7分（約60cm）。



蚕霊供養塔(照光寺境内)